

6/24 市役所で UNI カフェ



▲メンバーの6人が、市役所を訪れた市民にコーヒーを販売し、交流を深めました。

宇仁郷まちづくり協議会・ふれあい交流広場女性グループ（会員23人）は、市役所市民ホールで日ごろの活動を実演しました。

同グループは、八王子会館前ふれあい館で第4土曜日（9:00～12:00）に「ふれあい喫茶」を開いています。稲木秀子代表は「市民の方に日ごろの活動を知ってもらうことで、ほかの地域の刺激にもなり、地域から市を盛り上げるようにしたい」と話されました。

7/1 安全で安心な地域社会を築くために



▲キャンペーン用品を配りながら啓発活動を行いました。

犯罪や非行をなくし、「あやまち」からの立ち直りを支える地域をつくろうと、北播保護司会（柏原信也・加西分区長）や更生保護女性会、警察、市などは、社会を明るくする運動を行いました。

参加した約70人は、アステシアかさい、イオンモール加西北条などで、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることを、市民に呼びかけながら啓発しました。

7/13 加西病院を地域に開放



▲医療者制服着用体験を楽しむ家族。

加西病院は、市民と病院職員が接することで相互の理解を深めようと、「第10回ホスピタルフェア」を開催しました。

参加した250人は、「健康についての質問や相談を、気軽にすることができた」と自身の健康状態を確認したり、腹腔鏡手術の模擬体験やドクターズコンサート（涙そうそう）を聴いたりするなどして、病院職員とのふれあいを楽しみました。

7/14 ラジオ関西・谷五郎さんと風土記を巡る



▲コースの1つ水田家の休憩所。加西で採れた冷やしキュウリが振る舞われ、大好評でした。

「播磨国風土記1300年祭」事業のキックオフイベントとして、「谷五郎とゆく！風土記の里ラジオ関西ヒストリーウォーク in 加西」を行いました。

参加者250人は、ラジオ関西パーソナリティの谷五郎さんと北条町駅を出発。玉丘史跡公園や五百羅漢、住吉神社などを巡り、アステシアかさいまでの約7.5kmを歩きました。各所で歴史街道ボランティアから話を聞き、歴史と文化を満喫しました。

7/7 復興支援のために自分ができることを



▲ねっぴ〜、はばタン、わるタン、タカレンジャーなどが集結したゆるキャラショー「根日女物語」。

東日本大震災の被災地を支援しようと、「ハチドリまつり」が日吉神社（池上町）で行われました。

ハチドリが、燃える森に口ばしで水を一滴ずつ運ぶアンデス地方の物語をもとに、一人ひとりができることをしようと呼びかけました。

被災地の仮設で作った小物販売やゆるキャラショーも行われました。まつりの売り上げの一部や集まった募金（113,469円）は、東北支援のために使われます。

7/12 夏本番！「プールだいすき」



▲フラフープを使った輪くぐりを楽しむ園児ら。

別府幼稚園と富合小学校の園児ら35人が、同小のプールで、プール遊びを楽しみました。

1年生のお兄さん・お姉さんは、シャワーの浴び方やプールの入り方の手本を披露。水の中でじゃんけんをしたり、フラフープを使った輪くぐりをしたりするなどして交流を深めました。

園児らは「水の中でずっと遊んでいたい」と、プールから出るのを残念そうにしていました。

7/17 ペンキで絵を描き元気を発信



▲鶴鷹良輔くんは「経験することのない体験ができて楽しかった。一生懸命描いた絵をみんなに見てほしい」と話してくれました。

11月以降に取り壊す予定の健康増進センター（北条町横尾）の壁に、北条東小学校の6年生59人が、感謝の気持ちを込めてペンキで絵を描きました。

同センターは、昭和48年4月にオープンし、現在40年を迎えます。10月1日からは、健康福祉会館に機能を移転し、乳幼児から高齢者までの健康づくり事業の充実を図ります。富士山や太陽、花火などが描かれた絵は、取り壊しの日まで見学することができます。

7/20 かぶと虫と一緒に鉄道の旅



▲参加した子どもにはかぶと虫のつがいをプレゼント。

北条鉄道は、車内を木の小枝や葉で飾り森に見たてた「かぶと虫列車」を2日間で計9便運行しました。

列車は、北条町駅と粟生駅間を約1時間かけて往復。大阪観光専門学校鉄道サービス学科の9人が、ビンゴゲームや紙芝居をして、親子連れら約600人を楽しませました。

子どもたちは「大きな角がかっこいい。育てるのが楽しみ」と目を輝かせていました。